

# W Technical Analysis Report

TEL: 03-5695-7750 FAX: 03-5695-1150 E-mail: [wfxa@wakafxinfo.com](mailto:wfxa@wakafxinfo.com)HOME PAGE: <http://www.wakafxinfo.com/>

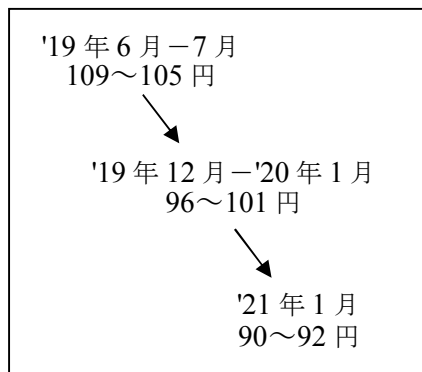
## 若林栄四のテクニカル分析レポート

Vol.801 dated Jun. 10, 2019

### 為替相場

以下、枠内図は【中長期イメージ】

■ ドル/円 (2019/06/07 ニューヨーク終値 108 円 19 銭)



以下の先週コメント参照。

“日柄がくれば動くのである。ようやく動き出した相場である。以下の先々週コメントでも5月末は108円86銭以下と申し上げている。相場は律義に月末当日に1円40銭も急落してその約束を守っている。6月末は2015年6月の高値125円86銭から36.5単位18円25銭を減じた107円61銭辺りまで相場が下がりそうだ。

この相場は2015年6月5日の高値125円86銭からの短月5ヶ月-236週の今年12月20日に終わる週に向けての下落だろう。101円から96円の間が目標だ。

目先は昨年10月4日の高値114円55銭からの36.5週-265日にあたる6月21日に終わる週に向けての円高進行だろう。

106円80銭-107円が限度だろう。

四半期足で見た大底2011年10月31日の75円53銭からの30.9四半期目(61.8÷2)は7月22-23日となっており、この日柄からドルが急落を開始するのではないかとみている。”

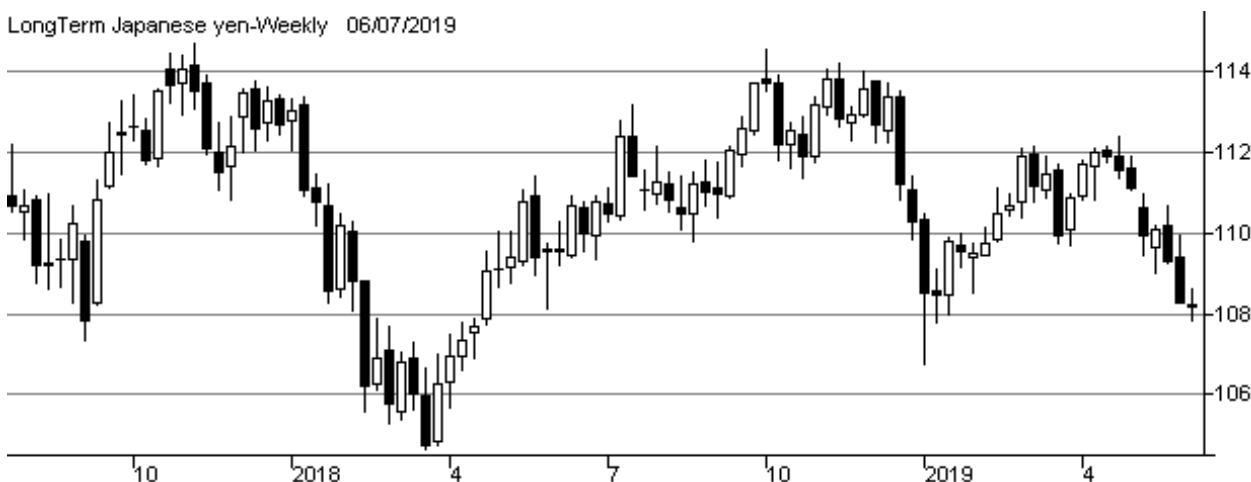
相場はあらゆる面で下に抜けている。

あとは日柄の勝負であるが、昨年10月4日の高値114円55銭からの36.5週-256日は6月17日となっている。あと1週間ほど時間が残されているが、相場はこの時間で若干の戻りを試すことが考えられる。最大でも109円50銭辺りまでだろう。

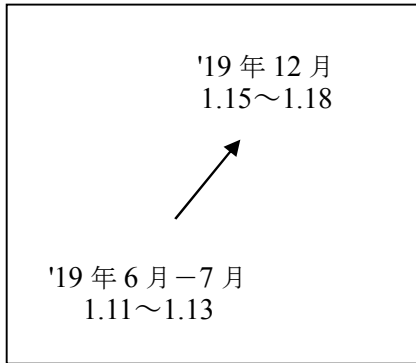
上記の7月22-23日からは本格的な円高相場がスタートすることになるだろう。

戻り売りが正解。

LongTerm Japanese yen-Weekly 06/07/2019



■ ユーロ/ドル (2019/06/07 ニューヨーク終値 1.1334)



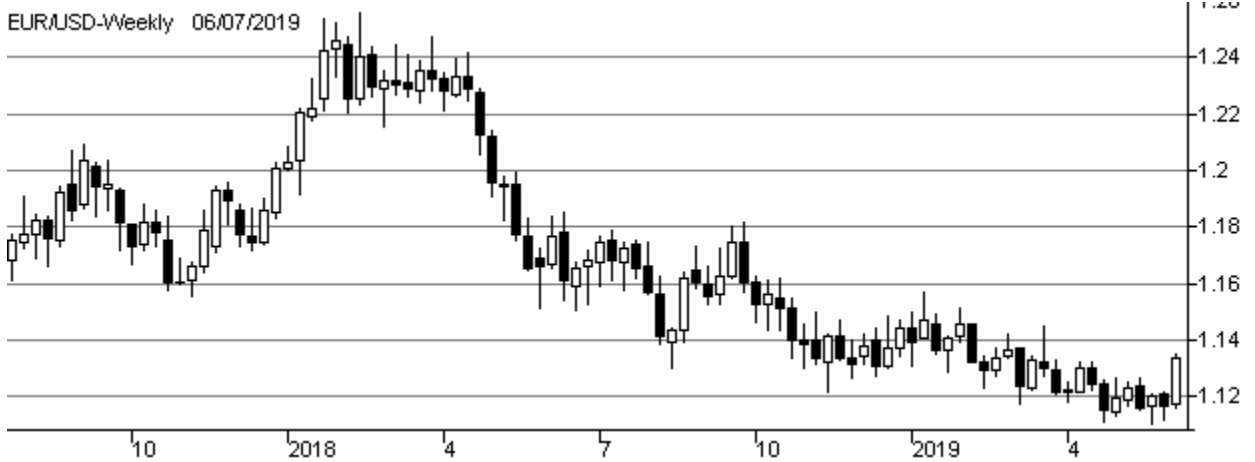
昨年2月16日の高値1.2556からの週足下げ18度チャンネルの下限にまで戻してきた。しかしこのレベルはそのチャンネルの下限が頭を抑えるはずであり、ここを一気に抜くのは難しいのではないかとみている。しかし基本は、この相場は買いであり、下がっても1.12までのように見える。

昨年2月16日の高値1.2556からの週足下げ18度チャンネルのメジャー・カウンター54度線が今週は1.1190位置して下値を支えそうだ

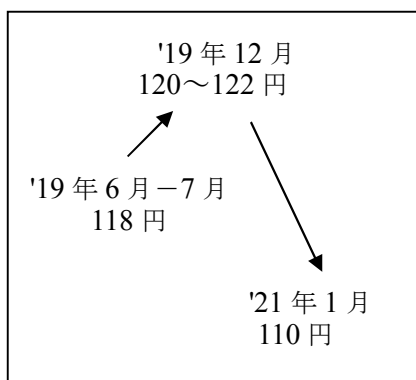
このカウンター54度線はその高値からの73週目にあたる7月12日に終わる週に向けて1.13まで相場を持ち上げるように見えている。更に2017年1月3日の大底1.0341からの短月132ヶ月、528週は7月19日に終わる週となっている。

更に加うるに、2001年7月6日のユーロ/ドル2番底0.8351からの18年目であり、それ以降は73四半期目(36.5単位)の日柄に入ることから相場急騰が予想される。

7月からの相場急騰に備えて、しっかりロングメイクをしておく必要がある。押し目は買いである。



■ ユーロ/円 (2019/06/07 ニューヨーク終値 122円62銭)



この相場の週足を見ると、昨年2月2日の高値137円50銭からの相場の下げの限界に達している。

その結果先週は120円台までであったが、若干戻している。週足で見るとそうだが、月足で見ると2012年7月の安値94円11銭からの上げ18度チャンネルの加速54度チャンネルの下限123円50銭を5月月足で切っており、(5月月足120円96銭)その18度チャンネルの下限110円近辺に向かう構えのように見える。

昨年2月の高値137円50銭からの下げ18度大チャンネルの下限120円50銭を下に切ると、上記の月足が示唆する110円コースとなるなりそうだ。

その前に137円50銭からのダブルペンタゴン横線サポート(19円10銭)が118円40銭に控えて強力サポートである。

日柄がなかなかむずかしいが、2007年7月と2008年7月のダブルトップの内2007年7月の169

円 05 銭の天井からの短月 154.5 ヶ月はこの 6 月となっており、6 月 14 日の週即ち今週がその日柄にあたる。

今週から相場の下げが加速するのか、あるいは反騰に転じるのか。反騰に転じる気づかいはなさそうだが、下値も堅い。

もう一つダブルトップの 2008 年 7 月の 169 円 99 銭からの日柄だと、来年 6 月まであと 1 年相場が下がる時間帯の余裕ができる。

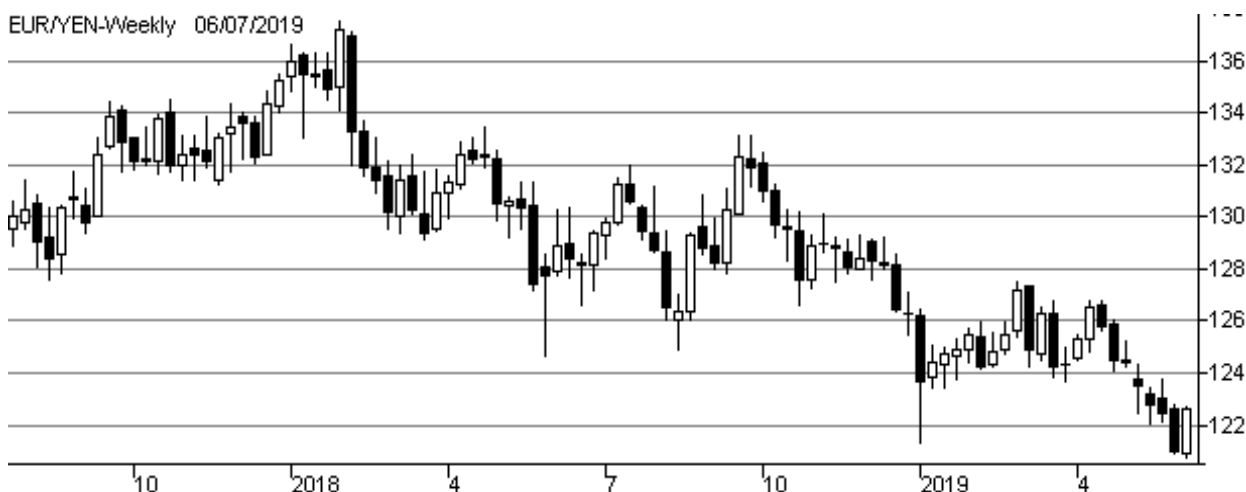
いまのところそのほうにかけのが有力だが、確定的ではない。

遠いところからの日柄を無視すれば、この相場はやはり下げが順当な形である。

ドル円が 75 円 53 銭の大底からの 30.9 四半期目となる 7 月 23 日辺りから、ドル急落に転じるといふ筆者の説から行けば、7 月後半からこの相場も大きく円高方向に走り始めるというのが妥当だろう。

戻り売り。

EUR/YEN-Weekly 06/07/2019



## 株式相場

■ 日経 225 (2019/06/07 終値 20,884.71 円)

'19 年 6 月 - 7 月  
20,000 円

'19 年 12 月 - '20 年 1 月  
16,000 ~ 19,500 円

'21 年 1 月  
15,000 円

相場は昨年 12 月 26 日の安値 19,848 円からの 22.5 週目にあたる 6 月 4 日に 20,289 円の安値を付け戻りに入っている。次の日柄は昨年 10 月 2 日の天井 24,448 円からの 36.5 週 - 256 日の 6 月 15 日である。相場は今週戻り高値をトライする構えである。

しかし来週以降は再び相場下げに入ることが考えられる。この 6 月 - 7 月は、いろんな相場が高値安値を付けた 2011 年の 9 - 11 月からの 31 四半期 (7 年 9 ヶ月) の日柄がやってくる。

2011 年 9 月 6 日は NY 金の高値 1,920 ドルである。そこからの 30.9 四半期目は 5 月 28 日ですでに金相場はそのタイミングから大幅上昇となっている。

その次は 2011 年 10 月 4 日の NY ダウ安値 10,404 ドルである。そのポイントからの 30.9 四半期は 6 月 24 日前後となっている。

NY 株はその辺りから下げ再開がはっきりするだろう。

2011 年 10 月 31 日にはドル円が 75 円 53 銭の底値を付けている。そのポイントからの 30.9 四半期目は 7 月 22 - 23 日である。

ドル円は保合い相場から下に放れるタイミングがその 7 月 22 - 3 日とみている。2011 年 11 月 25 日は日経 225 の震災後最安値 8,135 円を付けている。

そのポイントからの 30.9 四半期目は 8 月 15 日辺りとなる。

基本的には上記のごとく 6 月から 8 月に向けて大型日柄が陸続として到来する。

それらはすべて株安、ドル安が再開する日柄である。

それらの日柄まで株戻り高あるいはドル戻り高が継続するわけではないが、本格的な下落はそれらの日柄から始まるということだろう。

この相場の場合は NY 株の関数でもあるので、6 月 24 日の日柄が重要に見えている。

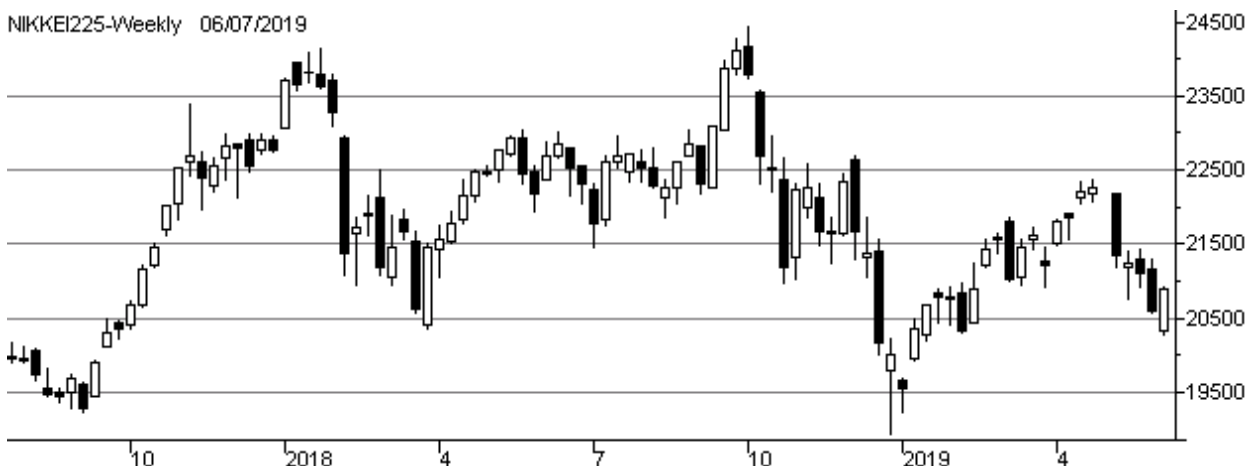
月足で見ると、昨年 10 月の天井 24,448 円からの 54 度線が 6 月には 21,500 円まで下りてきて頭を抑える。7 月はそのラインが 21,250 円まで下りてきて、しかも変化の日柄となっているので、戻りを試した相場がどっと下値を試しに入る時間帯だろう。

相場は来年 1 月に向けての下げとなるだろう。

というのは大底 2008 年 10 月の 6,994 円からの 45 四半期、長月 135 ヶ月・短月 146 ヶ月の日柄が来年 1 月に到来する。

週足のレジスタンスは 21,100 円辺りだが、何かの拍子で大きく戻っても 21,800 円が限度だろう。戻り売り。

NIKKEI225-Weekly 06/07/2019



■ ニューヨークダウ工業平均 30 種 (DJIA) (2019/06/07 終値 25,983.94 ドル)

'19 年 6 月 - 7 月  
23,800 ~ 24,200 ドル

'19 年 12 月 - '20 年 1 月  
23,000 ~ 23,500 ドル

'21 年 1 月  
19,000 ドル

NY ダウは大事な 25,200 ドルを下に抜いたと見えたが、だましで大きく反騰した。

雇用統計の際は相場が過剰反応するので今回のケースもその過剰反応だろう。

昨年 10 月 3 日の天井 26,951 ドルからの 36.5 週は 6 月 16 日、昨年 1 月 26 日の高値 26,616 ドルからの 73 週目が 6 月 21 日である。戻り相場はその燥ぎの日柄に入っている。

2011 年 10 月 4 日の安値 10,404 ドルからの 30.9 四半期の節目のタイミングが 6 月 24 日辺りに到来する。基本的にはその 10,404 ドルの安値からの 31 四半期 (30.9) に向けて相場が強含んでいるとみるべきだろう。この呪縛が外れるのが 6

月 24 日以降だとすると、6 月末近くから本格的な相場下落が始まるのだろう。

この相場はもし行き過ぎたとしても、2000 年 1 月の高値 11,750 ドルにペンタゴンの高さ 14,750 ドルを加えた 26,500 ドルが限度である。もちろん今回の戻しでそこまで戻るとは思わない。

その 2000 年の高値からの四半期足カウンター 54 度線がこの相場を抑えるはずである。そのレベルは 25,479 ドルである。したがって 6 月末相場は 25,479 ドル以下のはずである。

また年足で見ると 1982 年 8 月 9 日の底値 770 ドルから上げた年足 54 度線は今年 25,794 ドルにあり、これを超えるのは行き過ぎである。

週足で見ると昨年 12 月 26 日の安値 21,712 ドルに 36.5 単位 3,650 ドルを加えた 25,362 ドルを中心に相場が変動しているように見える。

取りあえず6月3日の安値 24,680 ドルは中心値から 682 ドル下方に振れたが、今度はその中心値 25,362 ドルから上方に 682 ドル振った 26,044 ドルを試しに行った。(先週高値 26,072 ドル) ということだろう。週足を見ると、21,712 ドルの安値からのカウンター72度線が6月28日に終わる週に向けてその中心値 25,362 ドルまで下りてくる形になっている。

相場は単に右往左往してイベントをこなしているだけで、テレビのコメンテーターには良い季節だが、ほとんど意味のない上下動だろう。

大きな流れで行けば大底 2009年3月6日の 6,469 ドルからの短月 132ヶ月の5月1日からの相場急落が大事であり、今度は 2011年10月4日の安値 10,404 ドルからの 30.9 四半期の日柄 6月24日が大事である。

戻り売りが正解。



#### ■ ナスダック総合指数 NASDAQ (2019/06/07 終値 7,742.10)

'19年6月-7月  
7,200~7,600

'19年12月-'20年1月  
6,900~7,000

'21年1月  
6,000~6,300

NASDAQは2016年2月の安値 4,209 からの 3,090 ポイント (ペンタゴンの対角線の長さ) の 7,299 で支えられて (安値 7,292) 戻りを試す展開となった。

前週の 7,600 の大事な節目をあっさり抜いたのは騙しであった。しかしこの雇用統計のタイミングは、多くは燥ぎ過ぎとなることが多い。

時間的には取引所開設の 1983年1月3日からの正確な 36.5 年は 2019年7月初めとなるので、天井は見た相場であるがその辺りまでもみ合いになるかもしれない。

昨年の 8月30日のダブルトップ 8,133 (今回の 8,176 とのダブルトップ) からの 50週目が 8月16日に終わる週であり、この 50の日柄は価格 36.5 単位と親和性が高い。

$8,133 - 365 = 7,768$  あるいは  $8,133 - 730 = 7,403$  を、その 50週目前後のタイミングで下に切り始めると動きは本物である。

基本は戻り売りである。

目先週足は昨年 8月30日の高値 8,133 からの下げ 54度チャネルの中の動きとなっている。

その高値からの下げ 18度線の 22.5週目から下げた 54度チャネルにサポートされ、そのもう一段上の 38.2週目から下げた 54度チャネルに頭を抑えられている。

その形から計ると 45週目の 7月5-12日に終わる週に向けて相場は次のピボット 7,340 を試すもののように見える。その 50週目の 8月16日に終わる週に向けての戻りが上記の 7,403 にはまってくると、相場が本格的な下落開始となるもののように見える。

目先は 7,600 が強いサポートである。一方 7,830 が強いレジスタンスである。

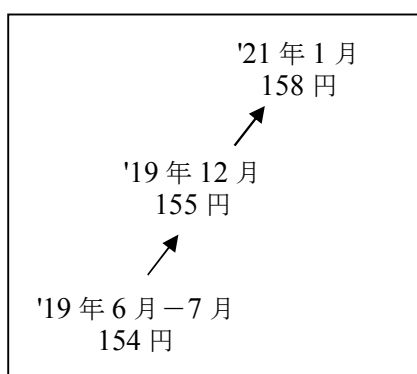
戻り売り。

NASDAQ-Weekly 06/07/2019



## 長期金利

■ 日本国債 (JGB) 先物相場 (2019/06/07 終値 153 円 44 銭)

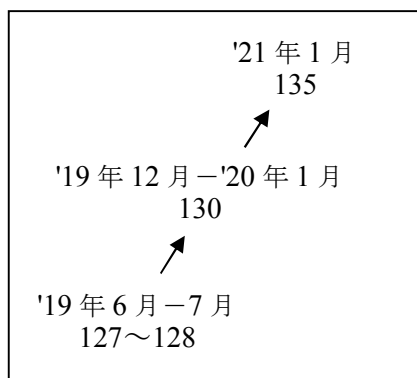


2016年7月28日の天井154円01銭からの146週目を過ぎた先々週相場は長大陽線を立て、上昇を宣言した。次は154.5週目が大事であるがその日柄にはあと6週間ほどあり、7月20日を過ぎる辺りではないかとみている。146週と154.5週の間で大きく相場が方向転換することはないと思われるので、7月20日以降はむしろ相場が加速上昇となる時間帯ではないかとみている。

以下の4月1日付のレポートを参照。

“この相場の四半期足を見ると1999年2月の安値125円70銭からの上げ18度チャンネルの、メジャー・カウンター54度線を先期で上に抜いた。この上げ18度チャンネルの上限は158円近辺にあり、どうもそれを目指して相場上昇する形になっている。2023年の第1四半期がその1999年安値からの95.5四半期-23.875年となるが、その時の18度チャンネルの上限は161円となる。もしキャッシュボンドがそれにフォローすると破滅的なマイナス金利の世界になってしまう。いずれにせよ、デフレの深化は免れそうにない。1990年9月の大底87円08銭からの月足18度線から計った距離感では154円が次の大きな関門となっている。週足では昨年8月2日の安値149円75銭からの36.5単位3円65銭を加えた153円40銭が強力なレジスタンスである。しかし大きな流れは強力な相場上昇である。”

■ 米国債券先物相場（TREASURY NOTE FUTURE）（2019/06/07 終値 126.28 利回り 2.084%）



この相場は2016年7月6日の高値134.04から見れば、大事な154.5週間目まであと3週間。昨年10月5日の底値117.16からの36.5週とすると6月18日辺りまでの日柄が残されている。基本は押し目買いである。しかし2%の水準を下に抜くのは難しいだろう。

以下の先週コメント参照。

“予想通り相場が爆発している。

2016年7月6日の高値からの週足18度線上の162週、水平線上の154.5週が近づいている。丸3年が156週だから、そ

れに1週足りない週が155週目となる。

したがって6月最終週がその日柄となるだろう。

127は強いレジスタンスである。キャッシュボンドで行けば2%の攻防ということになるのか。相場は行き過ぎて128まで突っかけても、月足レジスタンスは127にあり、月末相場は127以下ということになるのだろう。

月足で見ても2007年6月の安値103.21から上げた月足18度線が127近辺に位置してレジスタンスである。

あと3週間ほど上値トライだろう。上記の大事な日柄が、相場がおおきく上に抜けるタイミングとなるかもしれないので、要注意だろう。”

（了）